

一二一四番

足代あてへ行くゆく 小為手をすての山やまの 真木まきの葉はも 久ひさしく  
見みねば 蘿生こけむしにけり

一二一五番

玉津島たまつしま よく見みていませ ああきによし 奈良ならなる  
人ひとの 待まち問とはばいかに

一二一六番

潮満しほみたば いかにせむとか 海神わたつみの 神かみが手渡てわたる  
海人娘あまをとめ子ども

一二一七番

玉津島たまつしま 見みてし良よけくも 我われはなし 都みやこに行ゆき  
て 恋こひまく思おもへば